



引き続きの感染予防対策をお願いします

ここ数日、身近でもオミクロン株の脅威が感じられる心配な状況が続いております。第6波といえる爆発的な感染の原因を、専門家はオミクロン株の「人から人にうつるスピードの速さ」と分析しているようです。一部では、デルタ株に比べて重症化しにくいというような話もありますが、罹患しないことが一番であると思います。そのためにも、引き続きの感染予防対策の実践をお願いいたします。

【当面の間、特に気を付けていただきたいこと】

- ・マスクを外して人と接する場面ができる限り減らすこと（マスクは不織布が推奨されています）
- ・手指消毒を励行すること
- ・休日も不要不急の外出を控えること
- ・普段一緒にいる人以外との会食は控えること
- ・まん延防止等重点措置対象地域との往来は控えること（やむを得ない事情の場合は、事前に学校にご相談ください）

なお、生徒及び家族の方々が濃厚接触者や接触者になってしまった場合は、次のとおりご対応ください。

***いずれの場合も学校へお知らせください！**

（１）生徒本人が濃厚接触者や接触者になった場合……

→ 保健所の指示に従う。

（２）家族が濃厚接触者や接触者になった場合……

→ 家族のPCR検査の結果が出るまで生徒は登校しないで自宅で待機する。

＜検査結果が陽性だった場合＞

→ 保健所の指示に従う。

＜検査結果が陰性だった場合＞

→ 保健所に確認後、登校可能。

また、生徒本人やご家族に、発熱、せき、全身のだるさ等の症状が認められる場合は、引き続き登校を控えてくださいますようお願い申し上げます。（欠席ではなく出席停止となります）

新聞の記事から

1月26日の秋田魁新報に、「^{あきら}諦めない」という題で、次のような興味深い記事が掲載されていましたので紹介します。

2月4日に開幕する北京冬季五輪の代表選手が今月相次ぎ発表され、本件関係は女子2選手が選ばれた。バイアスロンの立崎美由子選手（33）は、21歳の五輪初出場以来、県出身選手最多の4大会連続の挑戦。アルペンスキーの向川桜子選手（30）は粘り強く努力を重ね、30歳で初の五輪にたどり着いた。対照的な道のりが興味深い。

（中略）

もう一踏ん張りです。五輪切符に届いた選手もいた。バイアスロン女子の田中きらり選手（24）も、そんな一人。4年前に続いて昨秋は、国内大会で海外遠征に参加する権利を勝ち取ったが、その後は結果を残せなかった。

花輪高校時代は距離選手で、全国上位の実力者だった。地元鹿角市で開催された3年時の全国高校総体では優勝候補とされながら振るわなかった。

レース後、母友美さんの前で「やめたい。もう無理」と大泣き。友美さんも「そんなこと言わないで」と涙を流した。その涙を見て「このまま競技をやめられない。母を喜ばせたい」との思いが湧いた。バイアスロン転向後も原動力になっているという。

今大会のバイアスロン女子代表4人のうち3人が30代。田中選手は次世代を担うホープだ。4年後は28歳と、今の向川選手の年齢に近づく。諦めず五輪を追い続けた向川選手の代表入りは、現在欧州に遠征中の田中選手にとって大きな励みになっているだろう。

向川選手は横手市の出身ですが、角館高校の卒業生でもあります。スポーツの世界で30歳というと、遅咲きともいえる年齢ですが、スポーツに限らずどの世界でも、何かを成し遂げたり、目標を自分の手にしたりするためには、どのような困難にあっても、粘り強く諦めずに続けられることが大切な一つの力だということを感じました。